

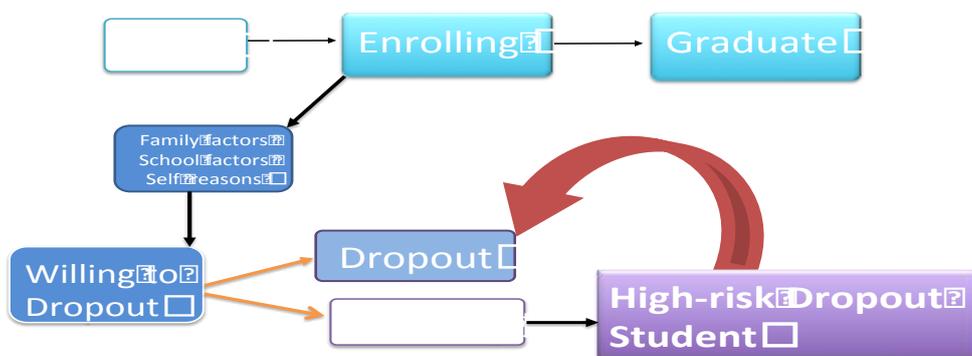
国際学会派遣プログラム

ポスドク研究者、大学院博士後期課程学生等国際学会派遣プログラム	
Impact of teacher-student communication on high-risk Dropout students	
氏名 Bajracharya Dinu	人間発達科学専攻
期間	2015年10月13日～ 2015年10月17日
学会名	2015 International Conference on Social Science and Psychology (ICSSP 2015)
場所	442Yeongdeungpo-dong 4-ga, Yeongdeungpo-gu Seoul, 150-798 South Korea
発表者名、 発表形式	Bajracharya Dinu (1名) 口頭発表

1) 本学会発表の意義

ユネスコ統計研究所 (UIS, 2013) は、世界中約 3,120 万人の児童が学校を中退し、もう復学しないと推計している。南西アジアのみでは約 1,354 万人で、ネパールでは初等教育学齢の総児童人口 (5-10 歳) 約 50 万人の 38.3% の児童が中退者であるという実態が報告されている (Index mundi, 2014)。また、農村地を中心に多様な要因で、中退リスクの高い児童、換言すると「学校をやめたい」と思っている児童が多数存在している。しかし、これらの児童の学校継続に関する先行研究はほとんど存在しない。UNICEF (2013) は、学校をすでに離れた子どもにアプローチするよりも、中退リスクの高い児童 (下図を参照) が抱えている問題に注目を当てることにより効果的であるとしている。したがって、本研究は、中退リスクのある児童を中心に、中退したいと思うようになる主な原因を分析し、その対策を検討した。

Conceptual framework: High-risk Dropout



(Bajracharya, 2014)

2) 研究発表の目的と内容

本研究の目的は中退リスクの高い在学中の児童たちが中退したいと思う主要な原因を検討することである。この目標を考慮し、具体的な研究課題を次のように設定した：1) 中退者を生む傾向のある主な理由は何か、2) 教師と児童間のコミュニケーションを減らす大きな原因は何か。本研究では定性的な手法と定量的な手法の双方を採用している。調査対象者である校長と教師に対しては半構造化インタビュー調査を実施し、85人の小学生にアンケート調査を実施した。調査内容は、教師と児童間のコミュニケーションレベルが中心であり、これが中退に影響しているかを明らかにすることが本研究の目的である。

分析の結果、中退の主な原因は、経済的要因、インフラ要因、移住要因、教師と児童間のコミュニケーションの欠如であることが明らかになった。中でも、コミュニケーション不足の要因がネパールの農村部で中退リスクの高い児童が発生しやすくなる主な理由であることが明らかになった。コミュニケーションが欠如する5つの重要な要因は、1) ワンウェー・コミュニケーションの学習パターン、2) カリキュラム中心の学習方法、3) 教員の評価、4) 体罰と怒り、5) 親によって形成された教師に対する怖いイメージ、であった。

本研究では発展途上国に適用できるいくつかのアプローチを検討した。効率的かつ費用効果のある Inquiry based Learning (IBL) アプローチ、教師と児童間でのインフォーマル・コミュニケーションアプローチ、学習者を中心としたアプローチが適用可能であることが示唆された。この戦略によって、教師と児童間のコミュニケーションの機会を増加させることができ、中退するリスクの高い児童が減少することが期待される。

3) 発表により得られた成果と今後の課題と予定

- ✓ 中退リスクのある児童を測定するツール、あるいはフレームワークがあれば、より簡単に中退リスクのある児童を確認でき、中退させないため、より早期に個別に対策方法をとることができる。
- ✓ ネパールの公立学校の教室ではグループワーク、一(児童)対多(同級生・教員)のコミュニケーションをとるようなことをしないため、そのような雰囲気作りが重要である。そのため、できる限り男女問わず授業内容に児童全員の参加を求めて行動することが有効になると考えられる。
- ✓ 授業の内容に関する(児童の)意見をきくこと、それに対して(教師が)フィードバックをすることによって、児童との距離を縮めることができると考えられる。同時にこれは中退を防ぐとも思われる。
- ✓ 最も効果的な予防戦略はおそらく教員、学校スタッフの態度と期待を変更することである。
- ✓ ネパールの子どもの権利と児童・生徒に体罰、虐待に関する法律について、親を含め、教員と学校のスタッフにも理解をしてもらうことが重要である。

報告者は、博士論文において、中退要因として「教師と児童のコミュニケーションの欠如」とそれに関係しているファクターについて検討する予定である。つまり、本研究は報告者の博士論文の重要な一部として位置付けられている。本発表内容は、報告者の博士論文の重要な一部として位置

付ける予定である。なお、本学会発表は *Developing Country Studies* に採択され、掲載された (Bajracharya, Dinu, 2015)。

4) 謝辞

この度は、グローバルリーダー研究所、平成 27年度「国際学会派遣」プログラムのを得て、2015年10月13日から17日に韓国ソウル大学で開催された学会 *International Conference on Social Science and Psychology, 2015 (ICSSP 2015)* に参加し、研究発表を行うことができた。グローバルリーダー研究所に心より感謝を申し上げたい。また、調査を実施するにあたり、各学校の校長をはじめ、指導教員の浜野隆教授、リサーチ・アシストをしてくださった Jiwak Bajracharya 氏、Salauna Bajracharya 氏 のご協力、ご助言に感謝の意を表したい。そして、本調査のために、時間を割いてくださった学校校長、教員と児童の皆様に心よりお礼を申したい。

5) 参考文献

UNESCO (2013). Institute for Statistics, UIS fact sheet. Schooling for millions of children.

Retrieved from <http://www.uis.unesco.org/Education/Documents/fs-25-out-of-school-children-en.pdf>

UNICEF (2013). annual report.

http://www.unicef.org/publications/files/UNICEF_Annual_Report_2013_web_26_June_2014.pdf (Retrieved on 5th july, 2015.)

Bajracharya, Dinu. (2015). Impact of Teacher-Student Communication on “High-Risk Dropout” Students. *Developing Countries Studies*, V.5 (18), pp.88-100.

Index mundi. (2014), Nepal Age structure, [Factbook](#) > [Countries](#) > [Nepal](#) > [Demographics](#) . Retrieved on (15th March, 2015).